

海外安全対策情報（令和3年度第1四半期分）

1. 社会・治安情勢

令和元年11月15日、イラン政府がガソリン価格の引上げを発表したことに伴い、イラン各地において、数日間に亘って抗議行動が発生し、一部地域においては、ガソリンスタンド、銀行、政府施設等が襲撃されたと報じられました。イラン政府は、これを受けて、治安回復のための厳しい措置を徹底し、さらに全面的にインターネット接続を遮断するなどして事態の沈静化を図りました。しかし、イラン政府の発表によれば、この抗議行動で230名が死亡した由であり、大きな被害が生じました。また、テヘラン州、フーズスタン州等の複数地域においては、給与未払問題等の経済問題に端を発した抗議行動も引き続き発生しています。

イラン国内におけるテロ・襲撃事件については、平成29年6月7日にテヘラン市内の国会事務所建物内及びイマーム・ホメイニ廟周辺において、複数の武装グループによる銃撃や自爆攻撃により18名が死亡、約50名が負傷する事件が発生しました。また、平成30年9月22日には、南西部フーズスタン州アフヴァーズ市において、軍事パレードに対する銃撃事件（25名が死亡、60名以上が負傷）が発生しました。その後、南東部、南西部含むイランの南部地域においては、襲撃事案等が断続的に発生し、同年12月6日には南東部シスタン・バルチスタン州チャーバハール市の警察本部に対する自動車爆弾攻撃が発生（治安機関員2名が死亡）、平成31年2月13日には同州ハーシュ市～ザヘダン市間の道路において、革命ガードのバスに対する自爆攻撃（車両利用）が発生（革命ガード兵27名死亡）するなどしました。武装組織・テロ組織と治安機関の戦闘が散発している北西部及び西部を含め、今後の同地域におけるテロ・グループの動向を引き続き注視する必要があります。テヘランにおいても、令和2年8月7日には、テヘラン市パスダラン地区における銃撃事件が報じられ、同年11月27日には、テヘラン東方約60kmの距離に位置するダマーヴァンド市付近で、ファフリザーゲ国防軍需省研究刷新機構長官の殺害事件が発生しています。

また、依然として、殺人、強盗、窃盗、性犯罪等の一般犯罪の発生もイラン国内の広い範囲で多々報じられていることから、イラン国内における行動については、十分に注意が必要です。

さらに、最近のイランをめぐる国際情勢及び新型コロナウイルス（COVID-19）の感染状況についても十分注意が必要です。

安全関連情報等については、当館から必要に応じて注意喚起情報を発出しておりますが、定期的に最新の報道や当館又は外務省海外安全ホームページを御確認いただくなど、自らの安全確保のための情報収集に心掛けてください。

2. 一般犯罪の傾向

(1) 概要

イランでは、犯罪発生件数に関する統計が公表されていませんが、各種報道によると、日常的に一般犯罪が発生しているものと考えられます。邦人に対する主な被害として、強盗（偽警察官による強盗、けん銃及び刃物を使用した強盗等）、窃盗（ひ

ったくり、スリ、空き巣、忍込み等)等の事件が発生しております。また、観光客の少ない地方都市において、外国人女性の一人旅を狙った性犯罪が発生していることから、地方都市においては、女性の単独行動は極力控えるなどの注意が必要です。

最近の一般犯罪に関する報道は以下のとおりです。

○ 4月7日付の報道によると、4月2日夜、テヘラン市北部の一軒家でテレビを見ていた女性が庭の方向で物音がしたため、確認しに庭に出たところ、覆面姿の男2名と出くわした。男は刃物を突き出して女性を部屋に連れこみ、手足を縛って脅した上で女性から金庫の場所と暗証番号を聞き出した。女性は翌日午前4時頃、縛られた手足を自分で解き、扉の施錠を破壊して脱出し、警察に通報した。女性の夫は出張中のためテヘランを離れていた。

○ 4月22日付の報道によると、4月20日、若い女性が職場に行くために、テヘラン東部テヘランパルスで白タク(プライド)に乗車したところ、運転手が急に車両の進行方向を変えたため、暴行されると思った女性は、運転手を油断させるために運転手に好意があるような態度をした。そして、運転手が油断した隙に、携帯電話で会社の上司に状況を伝えたのち、女性は運転手の隙を見て車外に逃げることに成功した。その後、監視カメラの映像により犯人は逮捕され、同女性に対し、性的暴行を企図していたことを自供した。

○ 5月2日付の報道によると、4月下旬、2名の男(いずれも24歳)がテヘラン市内において女性ばかりを狙った携帯電話の連続ひったくり犯として検挙された。3月に被害に遭った女性によると、女性は職場から出てタクシーの配車を行おうとしたところ、突如携帯電話を引ったくられ、犯人らは徒歩にて逃走した。警察は犯人らは1年ほど前から同様の犯行を繰り返していたと発表した。

○ 5月8日付の報道によると、検挙時期不明なるも、タクシードライバーの男(55歳)がテヘラン市内において強姦未遂の容疑で逮捕された。被害者の女性(18歳)は終業後(夜間)にタクシーを拾おうとしたところ、白タク(ザンディア)が停車、車内には複数の乗客が乗車していたことから、同タクシーを利用した。しかし、男は他の乗客が下車したあと、突如乗客の席にロックをかけ、女性が出られないようにした。女性は走行中の車の窓を開け、外側からドアの鍵を開けて脱出しようとしたところ、男に察知され車内でもみ合いになったが脱出し、警察に通報、被害者がナンバーを記録していたことから男は検挙された。

男は容疑を否認しているが、警察の捜査により男には少なくとも余罪が3件(いずれも否認)あり、いずれのケースも女性が脱出できない状態にしてテヘラン市南部の砂漠で女性を暴行したことが明らかとなっている。

○ 5月25日付の報道によると、検挙時期不明なるもテヘラン市北部で武装強盗を行った4人組が逮捕された。男らはテヘラン市北部のアパートに侵入し、住人であった老夫婦を拘束、老夫婦が金品の在処を話すのを拒んだため、両人に激しい暴行を加えた上で金庫の場所を聞き出し、金貨、外貨、宝石類を強取し逃走した。

老夫婦はベッドルームに監禁されていたが、両人に連絡がつかないことを不審に思った息子が警察に通報し、両人は保護された。

報道によると犯人らのうち1名の前科から捜査線上に浮上し、検挙にいたった

模様で、男らはこれまで数十件同様の犯行を繰り返してきたと供述している。

- 5月26日付の報道によると、3月15日、女装しマスクを着けた男による車両強盗が発生し、検挙時期は不明なるも犯人が検挙された。

事件の内容としては、犯人の男が3月15日の午後11時頃女装しマスクを着け歩いていたところ、女性の一人歩きを心配した男性（被害者）が車で送っていくと声をかけた。その後車に乗り込んだ男は、突如ドライバーに灯油を掛け「金を出さないと火を付ける。」と男性を脅迫し、男性が車を捨てて脱出したところ、男は車を奪取して逃走した。

- 5月27日付の報道によると、数日前（5月25日前後）、テヘラン市内アザーディスクエアにて白タクドライバーによる女性に対する強盗わいせつ未遂事件が発生した。被害者は23歳女性であり、職場から帰宅するためタクシーを拾おうとしたところ、目の前に白タク（プライド）が停車した。女性は同白タクに女性客が2名乗車していたことで安心し乗車したが、別の場所で女性客2名が下車した直後、男が車を停車し被害者にナイフを突きつけ、金品・携帯電話を脅し取った。男はその後女性の身体を触り始めたため、女性が激しく抵抗し、車内で男ともみ合いになった。

その後、車外で偶然もみ合いを発見した警備員が車に近づいたところ、犯人は車から被害者を蹴り出し逃走した。

- 5月27日付の報道によると、数日前（5月25日前後）、テヘラン市テヘランサド地区において警察官の制服を着用して金品をだまし取る2人組の男が逮捕された。警察の発表によると男らには10件の同様の余罪があるほか、同様の手口でこれまで5回検挙されていたとのことであった。

- 6月9日付の報道によると、4月頃、テヘラン市内のアパートにおいて家人女性が当時掃除夫であったアフガニスタン人の男に殺害される事件が発生した。男は被害女性宅に何度も出入りしている掃除夫であり、女性を殺害後部屋を荒らした模様。被害者の夫は当時仕事で外出中であり、被害者と連絡が付かないことを不審に思った被害者の姪が警察に通報し、犯行が明らかになった。

なお、犯人は「当時部屋に入っていない。」として容疑を否認しているものの、警察によるとアパート備え付けの防犯カメラには犯人の姿が映っていた。

- 6月24日付の報道によると、3月以降、テヘラン市内のバスの中で因縁を付けてトラブルを起こし、トラブルの最中に相手の金品を盗み取っていた2人組の男が数日前（6月20日前後）逮捕された。

被害者の一人の証言によれば、男の内一人が突如「ぶつかってきた。」と被害者に因縁をつけてトラブルを引き起こし、無関係を装っていた仲間の男が仲裁の振りをして、被害者から財布や携帯電話を盗み取っていた。

報道によれば、3月以降被害者は多数に及ぶとみられ、男らの検挙のきっかけも過去の被害者が犯人らと同じバスに乗り合わせ、まったく同じ犯行状況を目撃したからであった。

(2) 邦人被害事案

第1四半期中における邦人被害の報告はありません。

3. テロ事件等発生状況

(1) テヘラン市内

第1四半期中、テヘラン市内においてテロ事件等の発生はありません。

なお、テヘラン市内では、平成29年6月7日に発生したI S I Lによるテロ以降、テロ関連事件の発生は報じられておりませんが、令和2年度第4四半期中（令和3年2月24日）には、テヘラン市南部の高速道路の料金所において、リモート式自爆ベストを用いてテロを実行しようとした男が逮捕された旨報じられております。

(2) 北西部及び西部イラク国境付近

北西部及び西部イラク国境地域では、クルド人独立国家の建設を目指す「P J A K（クルド自由生活党）」等による治安部隊等を標的としたテロが散発しておりますが、最近も以下の事件が報じられました。

- 4月21日付の報道によると、同日、クルディスタン州マリヴァンで国境警備兵と反政府勢力が戦闘となり、テロリスト2名と国境警備兵2名が死亡した。
- 5月20日付の報道によると、5月19日、情報省はクルディスタン州にて、過去58日間でイスラム共和国体制の転覆及び国内の情勢不安の創出を試みていた3つのスパイネットワークを発見・摘発した旨発表した。さらに同省は、このほかにも、国内での破壊工作を企図して入国したI S I L等のテロ組織3団体が情報省により発見・検挙されたと言及し、前述のスパイ組織及びやこれらのテロ組織から多くの装備・証拠を押収した。
- 5月30日付の報道によると、5月29日、革命ガード陸軍が西アゼルバイジャン州の国境地帯において、イランへの進入を試みていた反体制派武装勢力と交戦し、テロリスト2名を殺害、複数の武器を押収した旨発表した。
- 6月15日付の報道によると、同日、革命ガードとクルド系武装勢力との間で武力衝突があり、9名の革命ガード隊員が負傷した。
- 6月21日付の報道によると、革命ガード陸軍はクルディスタン州において、過去10日間で3つのテロ組織を摘発した。
- 6月23日付の報道によると、数日前、革命ガード陸軍はクルディスタン州においてテロリスト5名を殺害、3名を拘束し、複数の武器弾薬を押収した。

(3) 南東部パキスタン国境付近

南東部パキスタン国境地域には、「ジェイシュ・アルアドル」、「アンサーール・フォルガン」と称するバルーチ系スンニ派反政府組織等が存在し、同組織らによる治安部隊等を標的としたテロが散発しておりますが、最近も以下の事件が報じられました。

- 4月24日付の報道によると、時期不明なるも、シスタン・バルチスタン州においてテロ攻撃を企図していたテロリストが革命ガード陸軍の国境警備兵の待ち伏せ攻撃により撃退された。
- 4月25日付の報道によると、4月24日、革命ガード陸軍がシスタン・バルチスタン州において、テロを実行する目的で同州に侵入してきたテロ組織を摘発し、テロ組織のメンバー3名を殺害した。

○ 5月4日付の報道によると、時期不明なるも、革命ガード陸軍は、シスタン・バルチスタン州において、武装集団を摘発した。

同軍は、摘発の経緯について、殺人・誘拐の前歴を有する武装集団に関する情報収集活動に基づき、同集団に待ち伏せ攻撃を実施した結果、同集団の構成員2名を殺害し、1名を拘束の上、複数の武器弾薬と爆発物を発見したと説明した。

○ 5月9日付の報道によると、5月7日、民兵組織バシジはシスタン・バルチスタン州においてテロリストと交戦し、バシジ隊員2名が死亡した。

(4) 南西部

南西部には、「アル・アフワズ」と称するアラブ系反政府組織等が存在し、過去同組織らによる治安部隊等を標的としたテロが発生していますが、最近も以下の事件が報じられました。

○ 5月13日付の報道によると、5月12日、革命ガードがイーラーム州で密輸中だった銃火器を押収した。押収物には、テロ事案で使用されている特殊ピストル50丁とAK-47ライフル10丁が含まれ、これらの銃火器は6月に予定されている大統領選挙の準備作業に対してテロ攻撃を起こす目的で、(テヘラン等の)イラン中央部に運び出す計画だった。

4. 抗議行動発生状況

令和元年11月15日、イラン政府がガソリン価格の引上げを発表したことに伴い、イラン各地において抗議行動が発生しました。令和3年度第1四半期中には、テヘラン州、アルボルズ州、イスファハン州、フーズスタン州等の都市において、賃上げ、労働待遇改善、年金増額等を訴える抗議行動が発生しました。今後も経済制裁や新型コロナウイルスの影響による経済状況悪化に伴う抗議行動の発生や、地方において発生した抗議行動がテヘラン市を含む各地に飛び火する可能性は否定できませんので、抗議行動関連の動向には引き続き注意が必要です。

5. 誘拐・脅迫事件発生情報

(1) 誘拐事件

第1四半期中、外国人が誘拐事件の対象となったとの情報はありません。

(2) 脅迫事件

第1四半期中、外国人が脅迫事件の対象となったとの情報はありません。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題

現時点では、当地における日本企業及び外国企業を対象とした脅威は特段見られません。ただし、上述のとおり、今後、国内各都市で発生する抗議行動が、テヘラン市を含む各地に飛び火する可能性は否定できないため、抗議行動関連動向には引き続き注意が必要です。冒頭に記載したとおり、定期的に最新の報道や当館又は外務省海外安全ホームページをご確認いただくなどして、自らの安全確保のための情報収集を心掛けてください。